

「プレアデス星団の魅力」

晩秋から冬にかけての真夜中、天頂を見上げると青白い星の一団が見えます。「プレアデス星団」(M45)です。個々の星はそれほど明るくないのですが、一ところにかたまっているのが、非常に目立ちます。肉眼では5個から6個の星が見えますが、双眼鏡を使えば、見える数は飛躍的に上昇して、まるでサファイアばかりの宝石箱のようです。



「プレアデス星団」(北軽井沢で撮影)

空が非常に暗い土地で、視力が 7.0 ぐらいある人(たとえばアフリカのマサイ族)なら、20 個以上見えるそうです。私には肉眼で5個しか見えませんが、写真には 30 個以上写っています。はやぶさ(鳥)の視力は 20.0 だそうですので、30 個見えるでしょう。晩秋から冬の天頂付近に見えます。天頂付近は、人工光の影響を受けにくいので、深宇宙に浮かぶ美しい姿を見ることができます。

プレアデス星団はおうし座の背中の中あたりにあります。すぐ近くのヒアデス星団と同じ「散開星団」で、同じ時期に生まれた非常に若い星(わずか 10000000 歳)の集まりです。今は、おうし座の一部ですが、5 億年後には散開して、一つの星座になっているかも知れません。しかし、このように温度が高く、燃焼速度(正確には「核融合速度」)が速い恒星は寿命も非常に短いので、5 億年後にはこぞって消滅しているでしょう。



「プレアデス星団」 赤道儀と望遠レンズ使用。栃木県奥日光で撮影
全体に青いベールをまとっているように見えるのは、星団全体を取り巻く星雲が、恒星の光を反映しているからです。全天一美しい「双眼鏡実視観望対象」と言えるでしょう。

公称をプレアデス星団といますが、これだけ目立つ存在です。日本でも古来、さまざまな呼び名で親しまれてきました。「羽子板星」「柄杓星（ひしゃくぼし）」などです。「ごちゃごちゃ星」なんてのもありました。中でも、最も有名な呼び名は「昴（すばる）」です。清少納言も「枕草子」の中で「星はすばる」と記しています。自動車の名称には、カペラ（ぎょしゃ座の一等星）、ジェミニ（ふたご座のこと）など、星の名をとったものが多いですが、スバルは一番有名なブランドです。冬の夜空、昔から愛されている「すばる」を、是非見上げてみてください。



「スバルの意匠と実際のすばる」

右のエンブレム（自動車のマーク）は初期型で、実際の星の並びに近いです。左は現在のもので、実際の星の並びを無視したデザインになってしまいました。